



学校だより

10月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～



「もしも」に備える大切さ

副校長 関根 達

9月1日の「防災の日」に、本校では総合防災訓練を実施しました。地震発生の中で、放送が使えない想定での避難訓練でした。児童一人ひとりが落ち着いて行動し、とても緊張感のある訓練だったと思います。自分の命を守るために何が必要かを考えるいい機会となりました。

今年7月28日には、熊本県で最大震度7を観測する「熊本地震」が発生しました。この地震では多くの住宅が被害を受け、道路や鉄道などの交通網も大きな影響を受けました。また、多くの方が避難生活を余儀なくされ、改めて自然災害の恐ろしさと日頃の備えの重要性が認識されました。県や国による支援が続いていますが、被災された方々は今なお復旧・復興に向けた努力を続けています。

さらに近年は、地震だけでなく豪雨や台風による被害も多数発生しています。全国各地で線状降水帯が発生し、河川の氾濫や道路の冠水など、甚大な爪痕を残しました。災害はいつ、どこで起こるか分かりません。だからこそ、「自分の命は自分で守る」という意識と、地域全体で支え合う備えの両方が大切です。

本校では、11月1日に上星川小学校地域防災拠点防災訓練が実施されます。この訓練は地域の皆様を中心となって準備を進めてくださっています。当日は、災害時の避難所開設を想定し、炊き出しや仮設トイレの設置、応急給水訓練、避難所生活訓練などが行われます。また、近年課題となっているペットとの避難についても考える機会となっています。地域の方々が協力し合いながら、「いざ」という時に備える姿は、子どもたちにとっても大変貴重な学びとなります。是非、多くの方々にご参加いただけたらと思っています。

ご家庭でも、この機会に防災について話し合っていただければと思います。いざという時の**家族の集合場所**は、決まっていますか？ **家族との連絡方法**は、どうしますか？状況にもよりますが、電車や車が使えない場合、保護者の方の勤務地から集合場所まで歩いてどのくらいの時間がかかりますか？親戚の方とも約束事の共有しておくとういと思います。また非常食や飲料水の備蓄、懐中電灯や携帯ラジオの準備など、ご家庭でもできることはたくさんあります。災害発生直後は、公的な支援がすぐに届かないこともあります。家庭での備えが、自分や大切な家族を守る大きな力となります。

学校では、今後も安全・安心な教育環境づくりに努めるとともに、子どもたちが自ら考え行動できる防災意識を育ててまいります。地域や家庭、学校が連携しながら、防災への備えを進めていくことが、子どもたちの未来を守ることに繋がります。ぜひ、11月1日の地域防災拠点訓練にも関心を寄せていただき、防災について考える機会としていただければ幸いです。

